

【陸前高田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)において示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、以下の学びの姿を目指す。

(1) 個別最適な学び

学習者の進捗や理解度をリアルタイムに近い状態で把握し、ICTを活用して個別にカスタマイズされたフィードバック及び教材等を提供する。

上記を充実させるために、教育現場におけるAIの活用の検討をしていく。

(2) 協働的な学び

オンラインでの共同作業やディスカッションを積極的に行い、物理的な距離に縛られない学習を目指す。自分の学びや気づきを発信し、また他の生徒の意見から学びを得ることでさらなる知識の向上につなげる。

2. GIGA第1期(令和5年度まで)の総括

端末の整備については、十分な検討時間を設けることができなかったが、他市町村の導入計画等も参考にしながら進めることができた。

通信ネットワークの整備に関しては、市内すべての小中学校で文部科学省が示す当面の推奨帯域を満たしていない状況で、各学校においてタブレットを活用した授業が円滑に進まない状態であった。令和5年12月に実施された文部科学省によるネットワーク調査において、当市のネットワーク環境の不足状況が可視化された。

上記結果を踏まえ、同年度3月にネットワークアセスメント及び環境整備を実施し、ネットワーク環境の改善がみられた。

当市において、ネットワーク環境の不足が一番大きな壁と捉えていたため、ネットワーク環境整備の実施が、ICTの利活用に大きな影響を与えたと考えている。

次期(3rdGIGA)に向けた端末更新については、第2期までの反省を踏まえ、適切なOS及び端末の選定、導入時期の検討を実施していくこととする。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の更新に当たり各学校及び関係各課が情報共有を図りながら更新作業を進める予定である。児童生徒にとって充実した1人1台端末の環境を維持していくために、以下の2点について重点的に取り組む。

(1) 情報リテラシーの底上げ

学校内でも教員によるICT活用の差が大きく、市内小中学校で足並みをそろえたDX推進を実施していく必要がある。今後は教員の習熟度に応じた研修の機会を設けていくとともに、時間や場所を選ばないオンデマンド配信等も活用しながら、リテラシーの向上につなげていく。

(2) 格差のない学びを保障

通常学級児童生徒、特別支援学級児童生徒、不登校児童生徒など、様々な児童生徒がいる中で、シームレスな学びの機会を提供していくことが必要であると捉えている。

オンラインでの共同作業やディスカッションを、実際の対面授業と同じレベルで実施し、場所や時間にとらわれない学びを提供していく。

また、児童生徒個別の進捗や理解度を把握し、個々の得意不得意を発見していき、それぞれにあったコンテンツの提供も行う。

学校設備において電子黒板やデジタル教科書などの整備を引き続き実施していくだけでなく、学校や指導主事の意見も仰ぎながら新たな学習コンテンツの導入も検討していく。